ふくろうだより vol.88

医療法人社団 秀皓会
〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 7-13
Tel.0798-81-1192 Fax.0798-81-0092
URL http://www.funacli.or.jp

危険な香りのする新興感染症について②

～新型コロナだけが感染症ではありません～

医療法人社団　秀皓会　理事長　　船本　全信

今年の冬は意外と寒く、異常な大寒波が～と恐れられていましたが、関西では幸い大きな影響なく済みました。同様に、大流行が懸念された新型コロナ第８波も落ち着きを見せ、インフルエンザの流行も案外と小規模なものでした。

前号より、新型コロナ以外にも注意すべき「新興感染症」の半分ほどを解説しました。今回は残りをお話しします。

⑨腸管出血性大腸菌感染症：腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌である。ヒトで発症する菌数は「わずか 50 個」程度と考えられており、そのため二次感染が起きやすい。また、この菌は強い酸抵抗性を示し、胃酸の中でも生残する。多くの場合、3～5 日の潜伏期をおいて、激しい腹痛をともなう頻回の水様便の後に血便となる。発熱は軽度で、多くは 37 ℃台である。血便の初期には血液の混入は少量であるが次第に増加し、典型例では便成分の少ない「血液そのもの」という状態になる。有症者の 6～7%において、下痢などの初発症状発現の数日から 2 週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）または脳症などの重症な合併症が発症する。HUS を発症した患者の致死率は 1～5%とされている。

⑩ニパウイルス感染症：マレーシアで発生した急性脳炎の多発は、ニパウイルスによるブタの感染とヒトでの脳炎であることが解明された。ニパウイルス感染症は新興感染症としてのアウトブレイクであったが、日常的疾患のサーベイランスの重要性、その中から不明のものが出現した場合の対応、国家レベルでの重症感染症・新感染症への対応、新興感染症に対する国際協力の重要性が再認識された。わが国においては、当時からこれまで直接的な被害はないが、2003 年 11 月改正の感染症法では、本症は四類感染症に指定された。

⑪日本紅斑熱：紅斑熱群リケッチア症は広く世界に分布し、わが国でも 1984 年に患者が初めて報告され、日本紅斑熱とよばれるようになった。本症を媒介するマダニは広くわが国に生息しており、発生地域が主に太平洋側の温暖な地域に限局している。全国的に春～秋の長い間注意が必要である。頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。潜伏期は 2～8 日と、ツツガムシ病の 10～14 日に比べやや短い。また、ツツガムシ病と同様に発熱、発疹、および刺し口が主要三徴候であり、ほとんどの症例にみられる。

⑫バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）感染症：　VRSA とは、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）による感染症の治療に用いるバンコマイシンという抗生物質に対する耐性を獲得した黄色ブドウ球菌の略である。MRSA 感染症に有効な治療薬は限られているため、我が国でも VRSA が出現し増加した場合、バンコマイシンによる感染症の治療が非常に困難となり、患者さんの予後を悪化させ、しかも治療期間の延長などにより、社会的、経済的損失をもたらすと考えられている。

⑬マールブルグ病：ウイルス性出血熱と定義される疾患は 4 種あり、ラッサ熱、　（裏面へ続く→）

マールブルグ病、エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱である。ウイルス性出血熱の特徴はウイルスがヒトに感染し、皮膚や内臓に出血を生ずるところにある。自然界におけるこのウイルスの宿主は現在も不明であり、どのようにヒトにウイルスが伝播されるかも全く分かっていない。マールブルグ病の症状はエボラ出血熱に似ており、発症は突発的である。発熱、頭痛、筋肉痛、背部痛、皮膚粘膜発疹、咽頭痛が初期症状としてみられる。激しい嘔吐が繰り返され、1～2 日して水様性下痢がみられる。診断上皮疹は重要で、発症後5～7 日で躯幹、臀部、上肢外側等に境界明瞭な留針大の暗赤色丘疹が毛根周辺に現れる。重症化すると、散在性に暗赤色紅斑が顔面、躯幹、四肢にみられる。治療は対症療法のみで、予防ワクチンはない。

⑭ラッサ熱：病因ウイルスはかなり限られた地域−アフリカのサハラ砂漠以南−に存在する。臨床的に突発的な発熱、頭痛、咽頭痛を主症状とし、重症インフルエンザ様症状を呈するが、重症化すると出血（吐血、下血）によりしばしば死に至る、感染者や患者の血液や体液、排泄物によりヒトからヒトへ感染が伝播する。したがって、院内感染や家族内感染を生じ、しばしば予期せぬ事態が発生するといった特徴がある。治療にはリバビリンが著効を示す。感染予防ワクチンはない。

このように、まだまだ未知の感染症が潜んでいて、いつ世界的に流行してもおかしくない状況です。本来なら世界保健機構（WHO）がきちんと情報収集して各国に情報開示し、その後は政府が厚生労働省や各種専門者委員会と協議して最適な対策を打ち出すべきなのですが、今回の新型コロナの対応を見ていると少しお寒い現状です。当院では、皆様が安心できるよう、できるだけ正しい情報を「ふくろうだより」等を通じて発信していきたいと思っています。

☆保険証提示のお願い☆

〇来院時には、診察券をお持ち下さい。
〇毎月初めての受診時には、保険証、受給者証等を確認させて頂いております。お手数ですが、来院時の際は受付にご提示頂きますようお願い致します。

なお、以下の場合は月の途中でもご提示下さい。
・氏名の変更　・扶養者の変更　・転居　・７５歳の誕生日を迎えられた時
・負担割合が変更になった時　・就職や退職など、新しく保険証が変わった時

※期限切れや、提示のない場合は、提示していただくまでの間、自費扱いとなります。
※診察券をなくされた方は、再発行させて頂きます。その他、気になる点がございましたら、お気軽にお声をおかけ下さい。

◆ふなもとクリニック　〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 7-13　tel.0798-81-1192

◆居宅介護支援事業所
デイサービスセンター　ふくろう
〒663-8165 西宮市甲子園浦風町 6-20　1F デイ　3F 居宅
tel.0798-40-9500(居宅) 0798-49-7670(デイ)

「ふくろうだより　Vol.８8.」第 1 版　2023/2/01 発行（次号は 2023 年 04 月初旬頃の予定です）